

「膵がんを少しでも早く発見する」について知っとこうか

なぜ膵がんは、特に早期発見が大切なのでしょうか？

膵がんは進行するまで症状が出にくく、早期に見つけることで治療成績が大きく変わる病気だからです。膵臓は胃の裏(背中側)にあり、がんができて進行するまで症状が出にくい特徴があります。

そのため、膵がん全体の5年生存率(診断から5年後に生存している割合)は約12%と、決して予後の良いがんとは言えません(胃がん、大腸がんでは約70%、乳がんでは約90%)。しかし、腫瘍の大きさが10mm以下という非常に早い段階で発見できた場合、5年生存率は約80%にまで改善すると報告されています。(図2)症状が出てからではなく、症状がない段階で見つけることが、将来の治療の選択肢や生活の質を守ることにつながります。

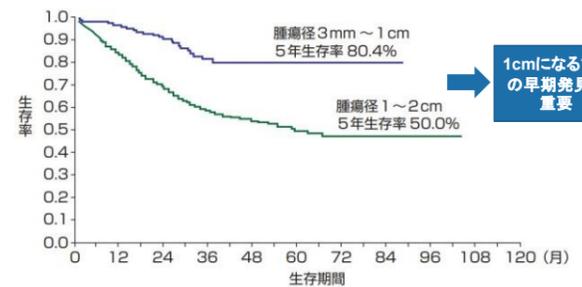


図2

膵がんになりやすい人や、注意が必要な人はいますか？

いくつかの「膵がんのリスク因子」が知られています。ご家族に膵がんの方がいる、喫煙や大量飲酒の習慣がある、肥満、糖尿病、慢性膵炎がある、膵のう胞を指摘されたことがある、といった方は、膵がんのリスクが高いと考えられています。これらに当てはまる方は、特別な症状がなくても注意が必要です。「何も症状がないから大丈夫」と思わず、定期的なチェックを受けることが、早期発見への第一歩となります。

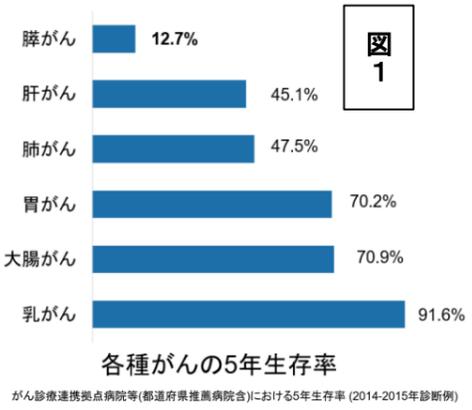


図1

がん診療連携拠点病院等(都道府県推薦病院)における5年生存率(2014-2015年診断例)



西野 恭平
消化器内科部長

膵がんを早く見つけるために、どのような検査を行うのですか？

まずは負担の少ない検査を行い、必要に応じて精密検査へ進みます。当院では、腹部超音波検査や腹部MRI検査(MRCP)など、身体への負担が少ない検査を積極的に行っていきます。これらの検査で腫瘍そのものが見えなくても、膵管の拡張や膵のう胞といった変化が見られる場合があります。そのような場合には、超音波内視鏡検査(EUS)を行います。超音波内視鏡とは、先端に超音波(エコー)装置が付いた特殊な胃カメラです。胃や十二指腸の内側から膵臓を詳しく観察することで、非常に小さな病変の発見が可能です。検査は点滴による鎮静下で行い、眠ったような状態で受けるので、苦痛はほとんどありません。

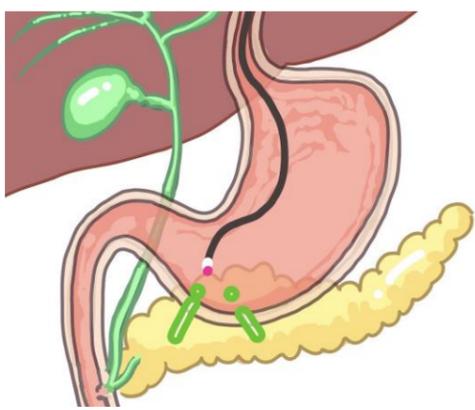


図4 超音波内視鏡検査(EUS)

図5 当院健診センターチラシ

MRIを使用した **肝・胆・膵 MRI検診**

「超音波検査で、膵臓がんの発見は困難」
って知ってました？

超音波検査で膵臓を観察するには、内臓脂肪や胃・腸のガスが邪魔をして病気を見つけることが難しい場合があります。MRI検査では、MRCPという検査により胆管・膵管を描出することにより、膵臓がんの発見に寄与します。

肝・胆・膵MRI検診 ¥29,700 (税込)

*肝臓・胆嚢の撮影も行います。
肝がん・肝血管腫・胆のう腺筋腫症なども診断できます。

膵がんについて、検査・診断から治療まで院内で対応できる体制が整っています。私自身は2022年に日本膵臓学会認定指導医を取得し、2026年1月には当科副部長の竹田善哉医師が同指導医を取得し、当院は日本膵臓学会指導施設として認定を受けました。さらに2025年4月には、滋賀医科大学より石川原医師が消化器外科部長として着任しています。これにより、膵がんが疑われた場合、内科による精密検査から外科による治療まで、院内で連携しながら診療を進めることが可能です。患者さんが複数の医療機関を歩き来する負担を減らし、安心して治療に臨んでいただける体制づくりができております。

代わりに

膵がんは「少しでも早く発見すること」が何より重要です。当院では専門医と最新の設備を活かし、患者さん一人ひとりに寄り添った診療を行っています。気になることがあれば、どうぞお気軽にご相談ください。

採用情報

常勤 看護師、助産師、介護福祉士、薬剤師

非常勤 看護師、病棟クラーク、メディカルヘルパー、医師事務作業補助者、歯科衛生士

お問い合わせ 人事課 (電話：0748-62-0234 (代表))

総合相談窓口のご案内

下記の日時に行いますので、お気軽にご利用ください。

日時 月～金曜日(祝日を除く)
8時30分～17時15分

場所 診療棟正面ホール 相談コーナー

※当院職員にお声掛け願います。

当院を受診される際は、診察カードをご持参ください(お問い合わせの際にもお手元にご用意ください)

超音波内視鏡システム 図3

